



136
2025夏

にってん フォーラム

高田馬場^{いち にーさん しっ!}1-23-4 ————— 長岡英司

2024 年度事業報告 ————— 立花明彦

新しい顔

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

オーディオブックってどんなもの? ————— 木村匡志

生誕110年記念特別連載

創立者本間一夫の生涯②函館・西宮 学生時代

シリーズ 点字で生きる～点字制定 200 年～②

点字人間の軌跡 ————— 白井康晴

「キャラクターをさわろう」展 開催中 ————— 伊藤宣真

私と日点 ————— 近江千恵子

明日につながる支援の力

現場の小窓 ————— 齋藤あすか

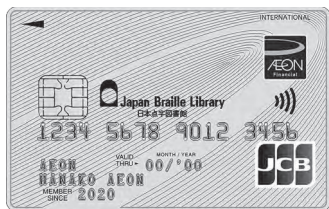
ご存知ですか?こんな商品

チャリティコンサートのご案内



ISSN 0916-8877

日本点字図書館カード 会員募集中



入会金・年会費無料

あんしんのクレジットカード
盗難保障

※カード発行には所定の審査がございます。

カードご利用金額の一部を

社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。

寄付金は、点字図書、録音図書の製作・貸出に役立てられます。

(※カード会員さまのご負担はございません)

みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで

視覚障がい者の方々を応援できるカードです。

その他詳細・
お申込みはこちら

日本点字図書館カード

検索



■カードに関するお問い合わせはイオンカードコールセンターまで

電話番号: **0570-071-090** (ナビダイヤル / 有料)

043-296-6200 (有料)

受付時間: **9時～18時** (年中無休)

お電話番号をよくお確かめのうえ、お間違えのないようご注意ください。

AEON CARD

外出時の困りごとの一つ

ながおか ひでし
理事長 長岡 英司

この時季は、夏休みやお盆休みで、普段とは違う場所へ出かける機会が増えます。そのような外出の際に多くの視覚障害者が直面する困りごとの一つに、トイレの使用での戸惑いがあります。

過日、トイレ設備の大手メーカー・TOTO株式会社が開発した公共トイレ用のユニバーサルデザイン操作盤（リモコン）の有効性を確認する会合に参加しました。その開発過程で、当館がモニタリングに協力をしたのです。便器洗浄（水洗）のリモコンも、温水洗浄便座（同社の商品名は「ウォシュレット」）のリモコンも、触覚やロービジョンで確実に操作できる、優れたデザインと機能であることが分かりました。当日その場に参加した視覚障害当事者からは、トイレでの困りごとが様々披露されました。その中心は、水洗の操作の仕方が分からないことです。初めて使うトイレでは、水洗がタンクのレバーハンドルを操作するのか、リモコンの操作盤でボタンを押すのか、すぐには分かりません。それを手探りや目を近づけて確認することには限界があります。最近増えているリモコン式では、操作盤がどこにあってボタンがどのような配置なのか、見出すのには一苦勞です。水洗ボタンだと思って押したら呼び出しボタンだった、どうしようもなく立ち上がったら自動で水が流れたなど、笑うに笑えない話もあります。JIS（日本産業規格）は、公共トイレでの操作盤やトイレトペーパーの配置についておおよその位置を規定しています。しかしながら、まだそれが行き渡っているわけではありませんし、操作ボタンの形状などは多様です。

ほかにも、駅や空港の広い男性用トイレでは、多数並んでいる小便器がどこにあってどれが空いているのか、それを探すのは容易ではありません。誰もが安心して快適な外出ができるよう、飲食店なども含む公共性のある場所のトイレでユニバーサルデザイン化が進むことと、必要なときに気軽に手助けを求められるような雰囲気社会全体で更に醸成されることを、切に願う次第です。

2024年度事業報告

たちばな あけひこ
館長 立花 明彦

2024年はどんな1年であったか？日本インフォメーション株式会社が生活者の実態や価値観などを調査した結果によれば、全体を通してマイナスの項目が多く、やや下向きな1年だった様子が窺えたと言います。

2024年度の法人を振り返ってみると、事業計画に挙げた事項は概ね達成できたと同時に決算も昨年比で赤字を免れることができ安堵しています。とはいえ、特に決算については根本的な改善を行っての結果ではないために、糠喜びにならぬようにせねばなりません。社会情勢等を踏まえると、不安材料が認められるだけにしっかりとした策を講じる必要があり、その検討を2025年度の重点課題にも組み込んでいるところです。

2024年度は読書バリアフリーを巡って様々な動きがありました。図書館に関連する雑誌のいくつかは読書バリアフリーについての特集を組み、その一環で点字図書館の立場での原稿執筆の依頼が寄せられました。読書バリアフリーをテーマとするセミナーやシンポジウムも重なり、パネラーとしての登壇の依頼も舞い込みました。読書バリアフリーに関連する図書を企画する出版社の取材協力にも複数回対応しています。これらは、当館の存在と事業をPRする機会にもなったと言えます。読書バリアフリーへの関心が高まりつつあり、これについての様々な動きがある状況を好機と捉え、当館事業の社会的重要性と貢献を一層広報していきたいと思っています。

ここでは紙面の都合上、事業計画に設定した五つの重点項目のうち、三つについてご報告します。

1. 図書等提供サービスの質の向上に向けた館発行資料の内容の見直し

利用者が図書等の貸出をはじめ、各種サービスについて満足度を上げられるようサービスの向上を図らねばなりません。2024年度は利用者へ発信・発行している印刷物等を見直し、読みやすくわかりやすいものにすべく改善作業を行いました。

具体的には新入図書の案内や貸出を促す話題、出版図書情報や用具新商品・

お勧め商品案内等をお知らせする隔月刊の『にってんブレイル』と『にってんボイス』の紙面を見直し、一部の内容と構成を刷新し、『にってんボイス』は本年4月号から、『にってんブレイル』は同5月号からリニューアルしての誌面でお届けしています。

2. 蔵書点訳における新たな製作体制の整備と始動

点字を守り、伝え、一定量の良質な点訳書を提供することは当館の大きな使命です。2024年度も点字製作体制の見直しと改善を図るため、ワーキンググループを設け、点字製作にかかる人的・技術的・設備的課題、ならびに収支等の確認を行い、共通認識を図りつつ検討を重ねました。

蔵書点訳の人材確保については、地域で活動する点訳グループにも協力いただくこととし、7月、承諾のあった6団体の会員に参集願い、点訳説明会を実施。そのうえで、具体的に点訳の依頼をし、下半期において8タイトルの点訳書が上がりました。点訳グループへの協力依頼は今後も有用な方策として継続します。

3. サピエ・CLISシステム管理班の始動によるシステムの円滑な管理と運営

「サピエ図書館」は、今日、全国の点字図書館等がサービスを提供するうえで不可欠なシステムです。それ故、保守と管理を担う当館の責務は大きいと言えます。また当館が図書の製作から貸出までの一連の過程で用いている図書館総合システムのCLISは、業務遂行の上で欠くことのできないものとなっています。これらシステムの安定的な維持に努め、与えられた責務を果たし、もって視覚障害者の読書環境の向上に資するため、図書製作部長をチーフとする「サピエ・CLISシステム管理班」を設置し始動させました。この班では、7月のサピエ研修会で11月公開の「完成図書通知機能」についてプレゼンテーションを行いました。また本年2月には、物理サーバ、デジタイズオンラインサーバ、会員管理サーバのリプレイスを滞りなく完了させました。今回のリプレイス作業ではサピエ参加施設の要望に応えるべく、サーバの休止期間を当初の予定から大幅に短縮させることができました。これは大きな実績として注目されます。

当館の事業は、利用者、ボランティア、寄付者、助成団体の皆様のご理解とご支援が大きな助けとなって遂行されています。改めて深く感謝いたしますとともに、引き続きのお力添えをお願い申し上げます。

新しい顔

今春、当館に3名の新規職員が加わりました。
私たちの新しい仲間を皆様に紹介いたします。



おおしろ

大城まゆみ（指定管理部）

はじめまして。4月に入職しました大城まゆみと申します。川崎市視覚障害者情報文化センターの録音製作担当です。私は沖縄県出身です。東京に住んでいる家族から、上京することを強く勧められ、昨年9月に上京して参りました。定年まで仕事を続け、退職後に上京することも考えましたが、新たな場所で新しいことに挑戦してみようと思い、身の回りのものを一切手放すという一大決心をしました。前職も沖縄で録音製作の仕事をしていたおかげでご縁が繋がり、入職いたしました。車社会で過ごしてきた私にとって、電車通勤は緊張の連続です。満員電車の中で、私は本当に目的地で降りることができるのか、何駅も前からその事ばかり考えドキドキしています。川崎では日々、優しい先輩方の指導のもと働いております。一日も早く業務に慣れ、お役に立てるよう努力してまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。



つる い た か ひ ろ

鶴井孝大（点字製作課）

はじめまして。4月より点字製作課所属となりました鶴井孝大と申します。私はこれまで日本史や障害者スポーツを専攻・研究し、3月までは大学で障害学生のサポート業務をしていました。

趣味は時代劇観賞、ギター演奏と歌唱、筋トレを含むスポーツ等で、特に音楽は、CD作成、ライブ出演、ラジオ収録など、仕事の合間に少しずつ取り組んでおり、両立できるようがんばりたく思っています。

点字については日常的に使用していますが、校正の経験はほとんどなく、「読む・書く」とことと「扱う」ことの違いや、普段自分が感覚でなんとなく点字のルールに触れていたことを、現在改めて実感しています。一方、日本史を専攻していたこともあり、時代小説や論文を読むことは得意なのではないか、と感じています。

まだ仕事は不慣れですが、先輩や同僚から多くを学び、少しずつ熟達していきたく考えていますので、どうかよろしく願いいたします。



みや かしこ
宮城かし子（点字製作課）

宮城かし子と申します。先天性の全盲で、点字製作課で触読校正を担当しております。出身は沖縄県北部の名護市です。小中学時代は盲学校で学び、その後高校・大学は一般校に通いました。

点字に触れることが大好きで、盲学校時代は『点字器で描ける絵と模様』が私の愛読書でした。また、私の学生時代は視覚障害者の間で文通が流行っておりましたので、全国各地の盲学校の方々と点字で手紙のやり取りをしていたのはとても懐かしい思い出です。

仕事を通じて、点字の素晴らしさに改めて感動し、墨字の自由度の高さにも関心を持つようになりました。先輩方の熱意に触れ、私も点字のスペシャリストを目指す決意を新たにしています。皆さんが心を込めて点訳してくださった書物の作成に携わることで、点字図書を必要とする方に、1冊でも多くの本をお届けできる一助になれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人JKA補助事業完了のお知らせ

この度、2024年度の競輪の補助を受けて、以下の事業を完了いたしました。本事業により、視覚障害者が就業や充実した日常生活を営むために役立つ、独自の「聞く雑誌」を製作、配布いたしました。

ここにご報告を申し上げるとともに、謹んで感謝の意を表します。

事業名 「2024年度障がいのある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業」

事業内容 視覚障害者用月刊CD雑誌『医学研究』・『ホームライフ』の製作及び配布

補助金額 2,909,000円

実施場所 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号
社会福祉法人日本点字図書館

完了年月日 2025年3月1日



社会福祉法人日本点字図書館
理事長 長岡 英司

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

オーディオブックってどんなもの？

日本点字図書館と出版社の連携取り組み事例

株式会社小学館 マーケティング局アクセシブル・ブックス事業室 課長 ^{きむら ただし} 木村 匡志

音で聞く読書というと、本誌の読者には音訳図書・音声DAISYを思い浮かべる方が多いかと思います。本や雑誌の中身を「音」にしたものにはほかにオーディオブックがあります。

オーディオブックは本を読み上げたもので、講演・落語・ドラマCD（ボイスドラマ）なども含まれます。パッケージ商品もありますが、現在はダウンロードやストリーミングで聞くタイプのものが主流です。

映像化と違い、内容の変更・翻案などをせずにそのまま読み上げます。一人の読み手が読み上げる朗読のほか、複数の登場人物を別の読み手が読み分ける作品もあります。図版類は省略されることが多く、PDFでダウンロード・閲覧できるようになっている場合もあります。

単品販売（アラカルト）と、月額・年額などの利用料で対象作品が自由に聞ける聴き放題（サブスクリプション）とがあり、併用しているストアもあります。

作品数と利用者が増えたのはこの数年。スマホとワイヤレスイヤホンが普及し、誰もが簡単に聴ける環境が整ったことに加え、移動や家事の時間など、紙・電子を問わず本だと難しい「ながら」が可能なのがタイプ重視の風潮に合致したからかもしれません。

オーディオブックは、読書困難者に特化したサービスというわけではなく、障害の有無にかかわらずに楽しめるもののはずですが、現在のユーザーの多くは健常者だとされています。なぜ障害当事者の利用者が増えないのかというと、配信ストアのサイト・アプリが十分にアクセシブルなものになっていないことが考えられますが、それ以前に、オーディオブックという読書手段・サービスがあること自体が知ら



はしくちこうへい
左：橋口耕平

右：木村匡志氏

れていないことが取材を重ねるうちにわかってきました。

そのような状況をなんとかできないものか、川崎市視覚障害者情報文化センターを取材で訪問した際に相談してみたところ、オーディオブックの紹介イベントを開催してはどうかとご提案いただいたのです。5月31日にセンターで開催されたイベント「オーディオブック・サロン」は、そのような経緯で企画され、実現されました。

障害当事者とその関係者・支援者を対象としつつも、参加に条件や制限は設けず、どなたでも参加いただけるものとししました。公的機関と出版社が協力して開催する読書バリアフリーイベントはやはりめずらしいのか、複数のメディアに事前に取り上げてもらった効果もあり、当日は約150の方が参加、この種のイベントとしては最多となりました。

イベントではオーディオブックがどのようなものか、どうすれば利用できるか、DAISYとはどこが違うのかといった情報をご案内しましたが、1回のイベントで十分だというものではないでしょう。単発の取り組みに終わらせないために、センターとは今後も取り組みを継続していきたいと考えています。また、他の支援機関・施設でも、こうしたイベントを開催できないか、オーディオブックを手がける出版社として考えていきたいと思います。

小学館では、川崎市視覚障害者情報文化センターだけでなく、指定管理者である日本点字図書館とも、バリアフリーの取り組みを進めています。

『GOAT』は2024年11月に創刊した文芸誌ですが、定期刊行物では事例が少ないとされるテキストデータ提供とオーディオブック化に対応しています。2025年6月に発売された第2号では、テキストDAISY版の提供も開始しました。

DAISY版の提供は、出版物のデータの利用法について相談した際に日本点字図書館からご提案いただいたものです。雑誌のデータが確定となってから発売までと制作期間が短かったにもかかわらず、迅速な制作に対応いただき、無事に雑誌の発売日にテキストDAISY版も公開することができました。

過去にも別の書籍でDAISY版・点字版を製作いただくなど、件数としてはわずかではありますが、日本点字図書館とは具体的な取り組みを始めています。今後も出版物をひとりでも多くの人に届けるための試みを、出版社・点字図書館の枠にとらわれずに、連携しながら進めていきたいと話しています。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

生誕110年記念特別連載◎創立者本間一夫の生涯②

函館・西宮 学生時代

本間一夫記念室

東京では治療の目処が立たず故郷増毛に戻った一夫は、ばあやのタミと地元の神社やお寺に通い、神仏に頼る毎日だった。

これではいけないと養母キミは盲学校に入れることを考えた。実は東京で暮らしていた時、東京盲学校（現筑波大学附属視覚特別支援学校）を見学している。しかし当時は建物も古く暗いイメージであったため候補から外され、キミが生まれ育った函館にある「函館盲啞院」に入学を決めた。

函館盲啞院は、戦後盲学校と聾学校に分かれ道立となり、盲学校は五稜郭近くに移転しているが、当時は私立の学校で函館山の中腹にあった。すぐ近くには元町公園があり、少し離れて八幡坂、函館ハリストス正教会があるなど函館湾を見下ろす、風光明媚な地区である。キミは一夫のため、この盲啞院に徒歩で通える場所に家を用意し兄家族と一緒に住ませた。この建物は一部現存し、蔵は「無垢里」という小さなカフェになっている。

1929（昭和4）年5月15日、一夫は3年生として入学し、そのとき院長佐藤在寛から点字週刊紙「点字大阪毎日」（現「点字毎日」）を手渡された。点字に初めて触れた瞬間である。点字という視覚障害者のための文字があることは知っていたが、触れたのは初めてであり自由に本が読める希望に喜びを感じた。

一夫は本が大好きだった。講談社の『少年倶楽部』や「立川文庫」など、店の従業員や親戚に読んでもらっていた。しかし、それらには時間の制約があり、好きな時に読んでもらうわけにはいかなかった。これで好きな時に本が読める！ 点字の習得に励み7月末には点字の読み書きが自由にできるようになり、2学期



函館盲啞院にて。後列中央一夫。前列右から二人目佐藤在寛

から5年生に編入された。

また同じ視覚障害の仲間がいることに安らぎをおぼえた一夫は、視覚障害者の世界にも目を向けることになる。中等部に進学し、1933（昭和8）年には演題「聞け黎明に高鳴る響きよ」により、東北北海道盲学生雄弁大会において1位に輝いた。この時期、ヘレン・ケラーと交流がありミルトンの研究者としても高名である日本ライトハウス創設者、全盲の岩橋武夫や、これも全盲のメソジスト教会牧師の熊谷鉄太郎くまがいてつ たろうの講演を聴き、またロービジョンでありながらロンドンで貿易商を営む好本 督いわずはし たけ おの著書によりイギリスには大きな点字図書館があることを知り、自分のライフワークとして点字図書館の設立を考え始めた。

先々のことを考え大学に進学することを決意。中等部を卒業後、受験に備え1年間研究科に在籍し、1936（昭和11）年、関西学院大学を受験した。英文学者壽岳文章じゅがくふんしょうらの面接試験を受け見事合格、専門部文学部英文科に入学、兵庫県西宮市にある大学キャンパスの近くに転居した。

在学時、一夫は多くの収穫を得ているが、中でも最高のものは基督教の信仰を得たことだと、後年記している。

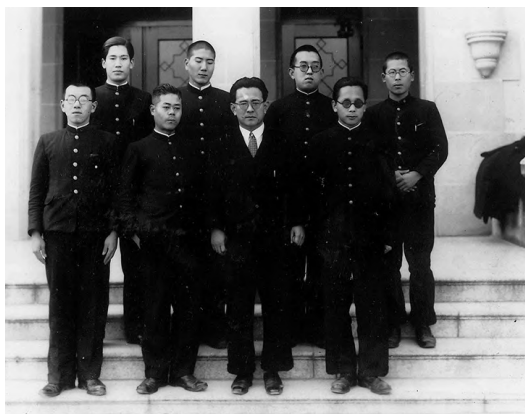
当時、同大学では岩橋武夫が英文学の教鞭を取り、また視覚障害者に門戸を開いていた唯一の大学であったため、数名の視覚障害者が同時期に学んだ。のちに島根ライトハウスを創設し日本盲人会連合（現日本視覚障害者団体連合）の会長を務めた高尾正徳たか お まさのり、大分ライトハウスを創設した瀬尾真澄せ お ますみ、当館理事・点字部長を務めた下澤 仁しもざわまさしがいた。岩橋武夫のもと、お互い切磋琢磨し、一夫は1939（昭和14）年、専門部文学部英文科を主席で卒業した。

（つづく）

（本連載では、新資料により既刊の本間一夫の伝記内容から一部改めて記述しています）

【訂正とお詫び】

前号本連載の中で漢字のルビに誤りがありました。キミの実家「下国」家は「しもくに」。眼科医「河本」は「こうもと」でした。訂正しお詫び申し上げます。



関西学院大学にて。後列右から二人目一夫。
前列右から二人目岩橋武夫

シリーズ 点字で生きる～点字制定200年～②

点字人間の軌跡

東京点字出版所 しらい やすはる
白井 康晴

私は生まれながらの全盲、全くの点字人間です。兄は小学校前からひらがなを知っているのだからと、普通幼稚園から盲学校に通って点字を習いました。「キ」の字に、木の枝みたいな形だと妙にはまりました。読んだ点字の点番号を覚えてはタイプライターで打ち、同じ形が書けると喜んでいました。数字の1、2、3を教えられたので、4、5、6を「エ、オ、カ」で打って自慢げに見せたら、母が慌てて愛の小鳩のカレンダーを持って来たこともありました。

盲学校では、会報の表紙の点字模様の皆で知恵を絞りました。出ている点と出していない点を反対にして読む事も流行しました。音符やアルファベットを仮名読みしては、できのよい響きを探しました。国語を教えていただいた盲ろうの福島^{ふくしまさとし}さんが使う、点字タイプライターの打ち方を応用した指点字は、夜遅くまでのヒソヒソ話に役立ちました。

点字で学んだ私が現在点字出版に関わり、後輩たちの教科書作りなどができていることに、やりがいを感じています。自ら読み、すぐに読み返せる「文字」という道具が思考を大いに助けることは、誰もが認めるところでしょう。点字もその役割をしっかりと果しています。

通常は仮名しか使わない点字ですが、これだけでかなりのレベルの日本語のやり取りができ、あん摩・鍼・灸の資格を取りに来る留学生も、点字の方が学びやすいと言います。目で見てもらうためにパソコンなどで漢字仮名混じり文も書ける時代になりましたが、自分のためなら点字が便利です。画面不要の小さな点字ディスプレイで、6点だけで、膝の上で読み書きできます。点字の漢字は、かさ張るので日常使用には不向きですが、人名や歴史用語のメモ、墨字文章の文字使いを知ることは有用です。

メディアの多様化で文字文化のニーズは相対的に下がり、更にマイナーな点字のニーズが見えにくくなっていますが、粘り強く伝えて行きましょう！

ふれる博物館第16回企画展

「キャラクターをさわろう」展 開催中

ふれる博物館館長 いとう のぶざね 伊藤 宣真

日本点字図書館附属池田輝子記念ふれる博物館の第16回企画展は「キャラクターをさわろう ―正義と平和と愛のキャラクターに触れる―」です。

よく名前を聞くキャラクターはどんな形をしているのか。想像上の物ばかりなので、説明だけでは形をイメージしにくいことが多々あります。

地元高田馬場の「鉄腕アトム」。代表的な地域キャラクター「くまモン」。今話題のやなせたかし作「アンパンマン」。海外物では「きかんしゃトーマス」。怪獣物では「ウルトラマン」、「ゴジラ」。日本テレビの天気予報に出演している「そらジロー」。ご近所の戸塚警察署からお借りした警視庁の「ピーボくん」。大阪・関西万博「ミャクミャク」等々。

昭和の懐かしいキャラクターから、最近のキャラクターまで約40種類を展示し、分野、世代を超えたキャラクターワールドを紹介します。ぬいぐるみとソフトビニル、同じキャラクターでも素材によって触った印象が変わりますので、触り比べができるものもあります。

また、スタッフが手作りした、日本の縄文時代、古墳時代のキャラクターともいえる土偶・埴輪の模型も展示しています。

共催は「手と目でみる教材ライブラリー」。企画に関しては共用品推進機構、元おもちゃ博物館館長の久米井靖裕氏に、展示品に関しては日本玩具協会、玩具メーカー各社、日本テレビ小鳩文化事業団にご協力をいただきました。

会期は9月13日土曜日まで。開館日は祝日を除く水曜日、金曜日、土曜日です。ただし8月13日、15日、16日は休館となります。



ミャクミャクの後ろには尻尾があり、先には目があることも、触ってわかります。

【お申込み・お問い合わせ】※ 事前予約制です

090-3247-7290 (10時～16時) (ふれる博物館開館日のみ)

03-3209-0241 (代) (9時～17時) (その他の日、本館代表番号)



私と日点

朗読ボランティア おうみ ちえこ
近江 千恵子

今、手元に色褪せた表紙のA5判の本があります。なかがわてい こ中川貞子著『声のボランティア－朗読奉仕者養成講座－』。中には、朗読奉仕者の学ぶべき事柄が小さな活字でびっしりと詰まっています。そして余白には40代の私が書いた走り書きの薄れた文字が……。月2回、約半年の講義が懐かしく思い出されます。

1980年代のある日、朝日新聞下段に日点の「録音奉仕者募集」の記事を見つけ、試験を受けて何とかその講座の受講生になったのです。スタジオで録音を始めた頃は未だオープンリールで、読み違えの訂正をするのが大変でした。カセットテープになって、家での録音が可能、と喜んだのも束の間、防音室のない悲しさ、愛犬の吠える声が入って、まともな録音にはならず……。結局、受講させていただいたご恩返しもできないまま再就職することに。

63歳で退職後、改めて日点にご挨拶に伺いました。当時の録音製作課長のかみのめ上野目さんが憶えていて下さり、快く迎え入れていただきました。

以来20年余の年月、週に1、2回スタジオで、唯ひたすら与えられた書籍を録音する日々。録音製作課の皆さん方の校正・サポートのお陰で、これまで続けて来られました。

前・課長のいちかわ市川さんには図表の多い書籍の時にご指導いただき、そのことが東日本大震災の年の9月に刊行され12月に朗読完了にする必要のあった書籍の録音に大変役立ちました。現在のふじさわ藤澤課長には、戯曲の録音の際にお世話に。学生時代の演劇部、子供が幼少時の人形劇のボランティア活動等、台本には慣れていたものの、中産階級二家族8人の読み分けに苦慮。そんな時の若き藤澤さんの励ましと、完了時のねぎらいのカードには今も大変感謝しています。

私は個人朗読、対面朗読ともに経験は無く、スタジオに籠って録音するだけの日々でしたので、利用者さんの感想も伺ったことはありません。ただ、本を読むという好きなことで多少なりともお役に立てたのであれば、退職後の人生を生きがい有るものにしていただいたことになり、心より御礼申し上げます。

◆ ◆ ◆ 明日につながる支援の力 ◆ ◆ ◆

このコーナーでは、当館をご支援くださっている団体・企業などをご紹介します。(総務部)

ふれる博物館への展示資料などの協力

本誌でも紹介しています当館附属池田輝子記念ふれる博物館は、2018年4月に分館において開館しました。視覚障害者が、2次元、3次元の情報を理解するには触察による確認が有効であることから、それまでの点字、音声に加え触察という新たな手段の情報提供を行っています。

近隣^{おおうちすむ}の大内進先生(国立特別支援教育総合研究所名誉所員)による「手と目でみる教材ライブラリー」から所蔵物をお借りして展示することからスタートしましたが、今は多くの団体や企業等の協力をいただき、多様な企画展が開催できるようになりました。

国立天文台、パラスポーツの各競技団体、江戸東京たてもの園、野鳥彫刻家・内山春雄氏^{うちやまはる お}、奇石博物館、国立科学博物館、鉄道弘済会・義肢装具サポートセンター、開催中のキャラクター展では日本玩具協会・玩具メーカーというように展示品の多くは関係の施設、団体、企業などにご提供いただいています。

視覚障害者にとって形を理解するのはさわる以外には難しいということを社会に理解いただく面からも、企画展のテーマの周辺に位置する団体・企業に協力をお願いしておりますが、「物」だけではなく、展示レイアウト案、パネルのテキスト監修、音源などで協力いただいたり、開催記念の講演会やワークショップの講師などを引き受けていただいたりすることもあります。国立天文台ハワイ観測所^{うすだ さとうくみ こ}の臼田-佐藤功美子氏、北海道大学大学院^{しまえり こ}の島絵里子氏、京都大学^{みねしげしん}の嶺重慎氏、国立科学博物館^{ま なべまこと}の真鍋真氏、日本画家橋本弘安氏、鳥類学者川上和人氏^{かわかみかず と}、奇石博物館のスタッフの皆様、はとバスの現役バスガイドさん、映画監督岡野晃子氏^{おか の こうこ}。また、休館中の江戸東京博物館には3週間にわたり「えどはく移動博物館」として、鎧兜の装着体験や歌舞伎の鳴り物体験などを実施していただきました。

まだまだご紹介しきれないたくさんのご協力をいただいております。あらためて感謝申し上げます。

点字を通したつながり

点字製作課 さいとう 齋藤 あすか

3年前に入職した際、124号「新しい顔」で自己紹介の文章を書かせていただきました。その中で私は「点字製作課は利用者の方々と直接お話しする機会はありませんが、当館の点字図書がみなさまのお手元に届き、読書の楽しみや喜びをお届けできていたら何よりです。」と書きました。ありがたいことに実際の業務では、予想以上に多くの利用者の方々とお話しする機会をいただいています。

主な機会は点字図書を購入したい、という方とのやり取りです。点字を学習したい、点字で読書を楽しみたい、時にはご友人に点字図書を送りたい、などさまざまな理由で日々お問い合わせをいただきます。「日点の本を読むことが生活の一部になっているの」と、定期的にお問い合わせをくださる方、前回読んだ本の感想を伝えてくださる方、こういった方々との会話で、点字図書が実際に皆さまのお手元に届いていることを実感でき、とてもやりがいを感じます。ある年の12月、お子さまへのプレゼントとして点字図書を送りたいという親御さんから、お問い合わせをいただいたこともありました。無事にサンタさんが届けてくれて、あの時のお子さまが図書を楽しんでくれていたらいいな、と思います。

そのほか、ご希望の図書を点字化する希望点訳のサービスでは、依頼本の受け渡し、完成品のご提供のほか、点訳方針についてご要望を伺うなど、こちらも日々さまざまなやり取りをさせていただいております。依頼者の方からのご要望は点訳ボランティアの方にお伝えし、そのご要望に沿って点訳作業を進めていただきます。点字で読みやすいレイアウトにするにはどうすれば良いのか細かい部分まで丁寧に検討くださり、また、時には急ぎの依頼にも快くご対応くださり……。希望点訳というサービスはボランティアの方々のご尽力あってこそこのサービスだと、日々の業務を通して実感する毎日です。この場を借りてお礼申し上げます。

ご存知ですか?

こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な新商品をご紹介します。ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

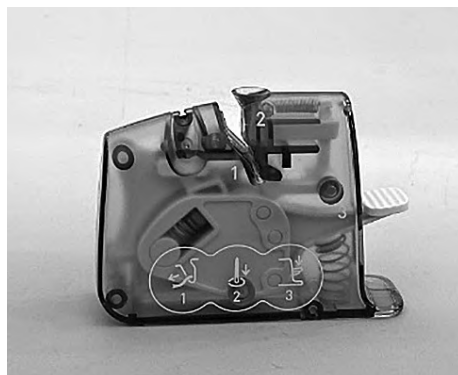
らくらく糸通し

[大きさ] (幅) 80 × (高さ) 25 × (奥行) 60mm

[重さ] 44g

[販売元] クロバー株式会社

[価格] 1,600 円 (税込み)



「らくらく糸通し」は、ワンプッシュで糸を針穴に通すことができる、手軽で便利な補助具です。視覚に障害のある方や、手元が見えにくい方、細かい作業が苦手な方にとって、針に糸を通す作業は大きな負担になります。そんな困りごとを解決するのがこのアイテムです。

使い方はとても簡単です。本体中央にある溝に糸をかけ、その隣の小さな穴に針の穴を下向きにして挿し込みます。針をしっかりとセットしたら、本体右側面の大きなボタンを下に押し込みます。これだけで、糸が針穴にスムーズに通ります。複雑な操作や力は必要なく、片手で簡単に扱える設計になっていますので、誰でも安心して使えます。

針穴が見えにくくなった方でも、指先の感覚だけで針をセットし、ボタンを押すだけで素早く糸通しが完了するため、裁縫へのハードルがぐっと下がります。また、針をしっかりと固定できるガイド穴と、糸をかける位置がわかりやすい溝の工夫により、糸通しにかかる時間やストレスを軽減し、針仕事をもっと楽しく、もっと身近にしてくれるアイテムです。

※一部、らくらく糸通しに使えない針もあります。予めご了承ください。

第23回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート 室内楽の愉しみ

[日時] 2025年12月13日(土) 14時開演(13時30分開場)
[会場] 東京文化会館 小ホール(JR上野駅 公園口 徒歩1分)
[料金] 4,000円(全席自由)
[曲目] シューベルト: 弦楽三重奏曲 No.1 変ロ長調 D.471
ベートーヴェン: 弦楽三重奏曲 ニ長調 Op.8「セレナーデ」
フォーレ: ピアノ四重奏曲 No.1 ハ短調 Op.15
[出演]



©Ayane Shindo

さわ あき
澤 亜樹
(ヴァイオリン)



©Shigeto Imura

さわ かずき
澤 和樹
(ヴィオラ)



©Julia Wesely

とば さくら
鳥羽 咲音
(チェロ)



すがた りか
菅田 利佳
(ピアノ)

チケットは当館総務課(電話 03-3209-0241)、
わくわく用具ショップのほか、チケットぴあで
もお求めいただけます。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。



にってんフォーラム〈第136号〉 2025 夏

発行 2025年7月25日〈年4回発行〉
発行人 長岡英司
編集人 立花明彦
発行所 社会福祉法人日本点字図書館
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4
電話03-3209-0241(代) FAX03-3204-5641
URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信したり
ウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みている!

「スマホで聞く音声ガイド」  音



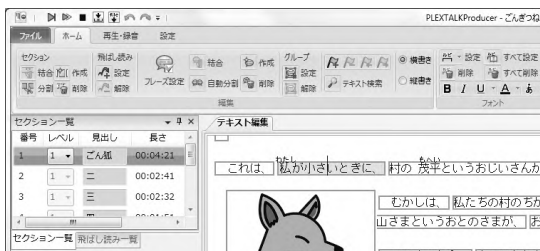
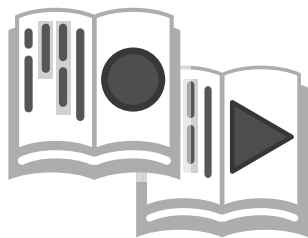
音声ガイド利用促進キャンペーン 2025夏

— あなたの「声」が映画の未来 —

← 映画鑑賞券をプレゼントします。(8/1~8/31)



音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書の標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD 書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows 11、Windows 10、Windows 8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々 !

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALK Producer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元 :

シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ:

www.plextalk.com

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。